



豪華でエレガントに しゃやく 芍薬を楽しむひと時を…



もうすぐ5月になります。芍薬の季節がやってきますね！芍薬は5月～6月にかけて切花での出荷が多く、旬を迎える花です。【立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花】という女性の美しい立ち居振る舞いを表す言葉にも使われる芍薬は、小さな蕾からだんだんと花開き、大きく豪華に咲くととても人気の花のひとつです。一口で芍薬といってもピンクの濃淡・白・濃紫などカラーバリエーションも豊富で、好きな色を選んでシンプルに花瓶に一輪飾っても可愛いですし、何輪かまとめて大きな花瓶に飾るとより豪華に、贅沢に楽しんでいただけますよ！

では、ここで切花の芍薬をきれいに咲かせるコツをご紹介します。

- ① 余分な葉はなるべく整理しましょう！水の鮮度が長持ちし、清潔を保つことが出来ます。水切れも防げます！葉は、手で簡単に取ります。
- ② 蕾に蜜がついている場合は、濡れたタオルなどでやさしく拭きとりましょう！
- ③ 水替えは毎日が望ましいです。水に浸かっている茎の先も毎日少しずつカットして、新しい切口にすると水あげもよいです。
- ④ 風通しの良い直射日光の当たらない場所に飾りましょう！

ぜひ豪華でエレガントな芍薬をお楽しみください♪



初夏のさわやかアレンジメント ¥4,400（税込）
初夏の空気を連想させる、芍薬。華やかで豪華なアレンジメント。こぼれるように咲く様子がなんとも贅沢です。



陽の光でキラキラ輝くガラスの花瓶と一緒に。だんだんと開いていく様子は、いつまでも眺めていたくなりますね。



小さな花瓶に少しずつ。お部屋に合った色の芍薬を選んでシンプルに飾っても可愛いです。



ラベンダーのコンテナ



単品植えて楽しむ

かんたんハーブガーデン

ハーブとは香りや薬効、食を楽しめる植物の総称で日本語では、薬草や香草とされます。そのためハーブといっても様々な種類があります。ハーブの中には、ポットに植えられた苗以外に種から育てられるものもあります。1品種をたくさん育てたい、低価格で始めたい、植物栽培に慣れた方には種もおすすめです。

しかし、種から育てると栽培に時間と手間がかかります。初心者さんは、苗からスタートしましょう。4月中旬から5月は、ハーブ苗を植えつける最も良い季節。一番良いこの時期に多くの品種が店頭に並びます。春先に販売されている苗を急いで購入すると、バジルなど寒さに弱い種類は、防寒しないと傷むので気をつけましょう。

栽培適所は、基本的に屋外の日当たりです。水捌けの良いハーブの土や花や野菜を育てる有機培養土に植えつけます。元気に育てるには、6号鉢で1苗、長方形プランターで3～5苗程度に植え替えましょう。栽培中は、適宜肥料を与えましょう。

ハーブの中でも人気のミントは、地上の葉茎も育ちますが、地下茎を土の中に伸ばして、地中からも新しい芽が出ます。寄せ植えすると思わぬところから、ミントが出ることがあるのは、そのためです。単品で植えるか、寄せ植えして、混ざるのを避ける場合は、仕切りをするか似たようなミントと一緒に植えるのを避けると良いです。

葉を楽しむハーブは植えつけから一ヶ月程度で、収穫。カットすると新しいわき芽が伸び新鮮で香り良い葉が何度も楽しめます。

料理にハーブを使わない方は、ラベンダーやセンテッドゼラニウムなど鑑賞用として花壇や寄せ植えてハーブを楽しむのもおすすめです。



ハーブの寄せ植え

初心者さんにおすすめのハーブ
バジル・ミント・タイム・イタリアンパセリ・大葉・ローズマリー・ラベンダー・パクチー・センテッドゼラニウム など